

英語塾を開いた元衆院議員

ひと

さいとう じゅん
齊藤 淳 さん(42)



「ホップ・オン・パップ……」
6人の中学1、2年生たちと米
国の絵本を一緒に読み上げる。小
さかった生徒たちの声が、どんど
ん大きくなっていく――。
民主党の元衆院議員。今春、東
京・自由が丘と故郷・山形県酒田
市に中高生向け英語塾を開いた。
2002年の衆院補選で当選し
た。だが、翌年の総選挙で敗れて

渡米。3月まで米国の名門エール
大で政治学を教えていた。

帰国のきっかけは母親の介護の
ため。日本の大学からの誘いもあ
ったが、10年ほど前から温めてい
た英語塾開設を選んだ。「英語が
できないために日本人は大損して
いる」という思いが根底にある。

故郷では10代のころ、生きた英
語に接する機会が少なかった。映
画や短波放送でリスニングに努
め、ホームステイで来た外国人の
通訳を引き受けたりした。でも大
学3年のとき米国に留学すると、
英語力が全然足らなかつた。

「自分が回り道した分、今の子
には最短距離を提供したい」

議員時代は教育の地域間格差の
是正に取り組みたかつた。でも今
は成功例を自分で作ろうと思う。

初年度は東京で30人、酒田で20
人ほどの生徒が集まった。「板書
ばかりの学校の授業より、ずっと
面白い」と生徒たち。

将来は英語で民主主義論なども
教えたい。英語で議論する「小さ
な大学」を目指す。

文・尾沢智史 写真・遠藤啓生